

(博士後期課程) 化学・環境・生命工学専攻【応用化学コース】 アドミッション・ポリシー

研究科・専攻ポリシー

化学・環境・生命工学に関わる技術的基盤や研究遂行能力をさらに高め、さらに幅広い工学的見地から自立的に課題解決を遂行できる高度専門技術者・研究者の育成を行う。また、これらの活動に対して、情報の受発信を円滑に行い、リーダーシップをとりながら課題発見から解決に至る過程に携わることができる能力を高め、グローバルに活躍できる人材を社会に輩出します。

<求める人物像>

- 化学・環境・生命工学専攻博士後期課程の教育目標を理解し、その実現に対して努力できる人
- 化学・環境・生命工学専攻についての技術基盤をもち、他分野との融合的な取組みに柔軟に対応できる人
- 自らの考えや研究の意義づけ、状況把握に対して的確に言語表現ができる人

入学前に学修しておくことが期待される内容

博士後期課程では、博士前期課程以上に主体的かつ積極的に研究課題に取り組み、研究を遂行するとともに、当該する学術分野において研究成果を国際的に発信できる能力が求められる。そのためには、当該分野における高い実験（研究）遂行能力を身に付け、最新の分析技術とデータ解析手法を学んでおくことが必要である。また、学術情報を収集し理解するための科学英語読解能力、当該分野の研究者とハイレベルの意見交換できる英会話能力、研究成果を世界に向けて発信するための英語学術論文作成能力、などの実践的な英語力が必要である。さらに、博士前期課程と同様に、工学倫理（研究者倫理）を修得し、より高度な情報リテラシーを身に付けておくことが望ましい。

一般入試

学科試験は課さず、面接試問と書類（調査書、成績証明書）審査の結果で総合的に評価する。面接試問では、博士前期課程での研究内容と博士後期課程で行う予定の研究内容について、プレゼンテーション（20分程度）を課す。

外国人留学生入試

学科試験は課さず、面接試問と書類（成績証明書、推薦書他）審査の結果を合わせて総合的に評価する。面接試問では、博士前期課程での研究内容と博士後期課程で行う予定の研究内容について、プレゼンテーション（20分程度、日本語または英語）を課す。入学前に学修しておくことが期待される内容に加えて、日本語文献の読解と日常会話が可能で日本語能力が必要である。